



個人投資家様向け説明会

2025年12月19日

株式会社エフ・シー・シー
上席執行役員 事業管理統括 長坂 三樹伸

目次

1. 株式会社エフ・シー・シーについて（動画）
2. エフ・シー・シーの強み
 - 二輪事業
 - 四輪事業
 - 新規事業
 - サステナビリティ
3. 足元の業績

1. 株式会社エフ・シー・シーについて

■ グローバルマーケットにて事業拡大を進めるクラッチメーカー

株式会社エフ・シー・シー

[設立] 1939年6月

[本社] 静岡県（浜松市）

[主製品] 二輪車/四輪車用部品（クラッチ）

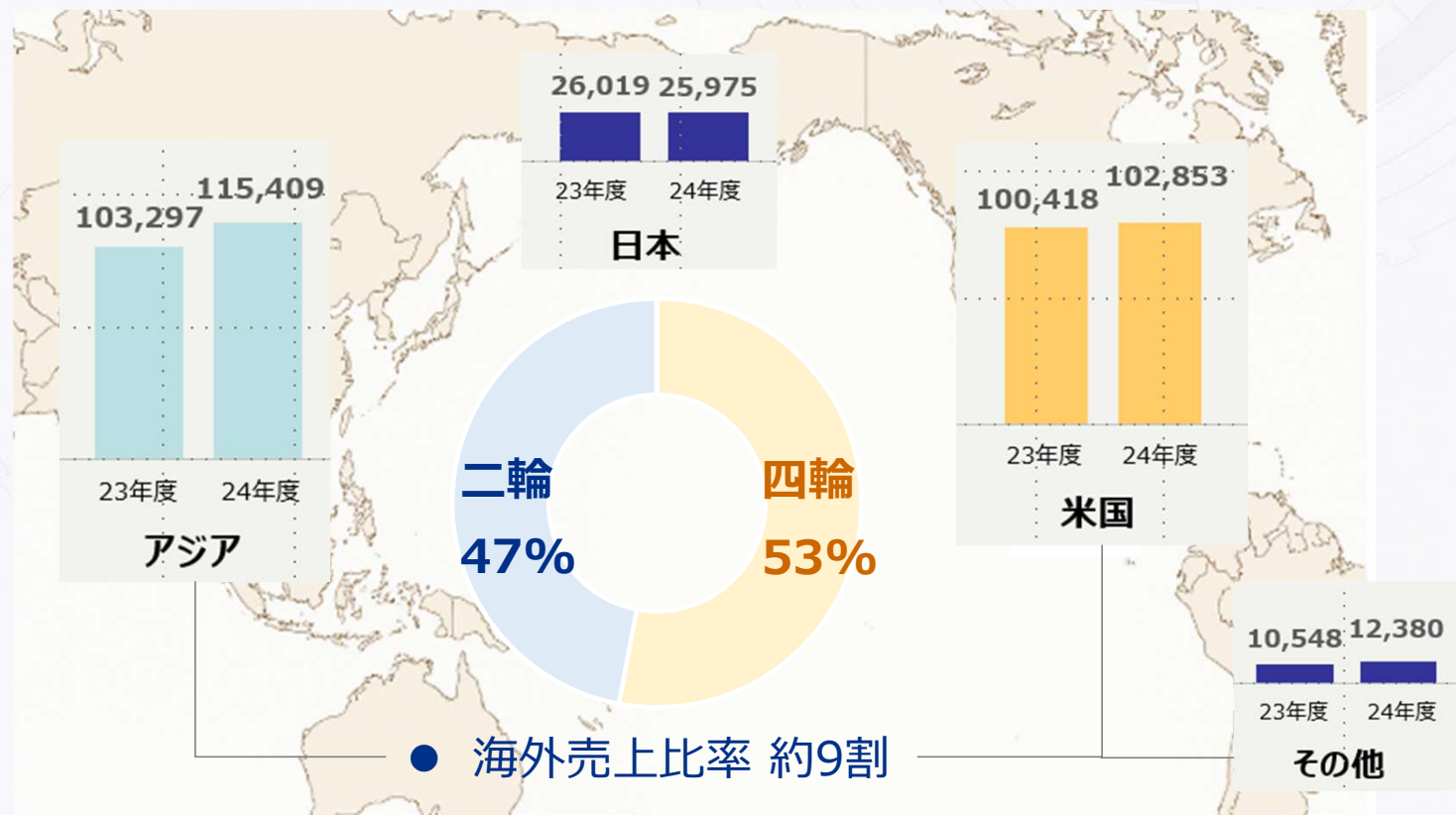
2024年度連結業績

- 売上収益 2,566 億円
- 営業利益 173 億円
(営業利益率 6.8 %)
(ROE 8.6 %)

グローバル経営（地域売上高/百万円）

10カ国
29拠点

グローバル
生産拠点数



2. エフ・シー・シーの強み

■ 材料技術（ケミカル） × カタチづくり技術（メカトロ）で付加価値を提供

クラッチ製品のキーとなる技術

ケミカル領域

摩擦材材料技術

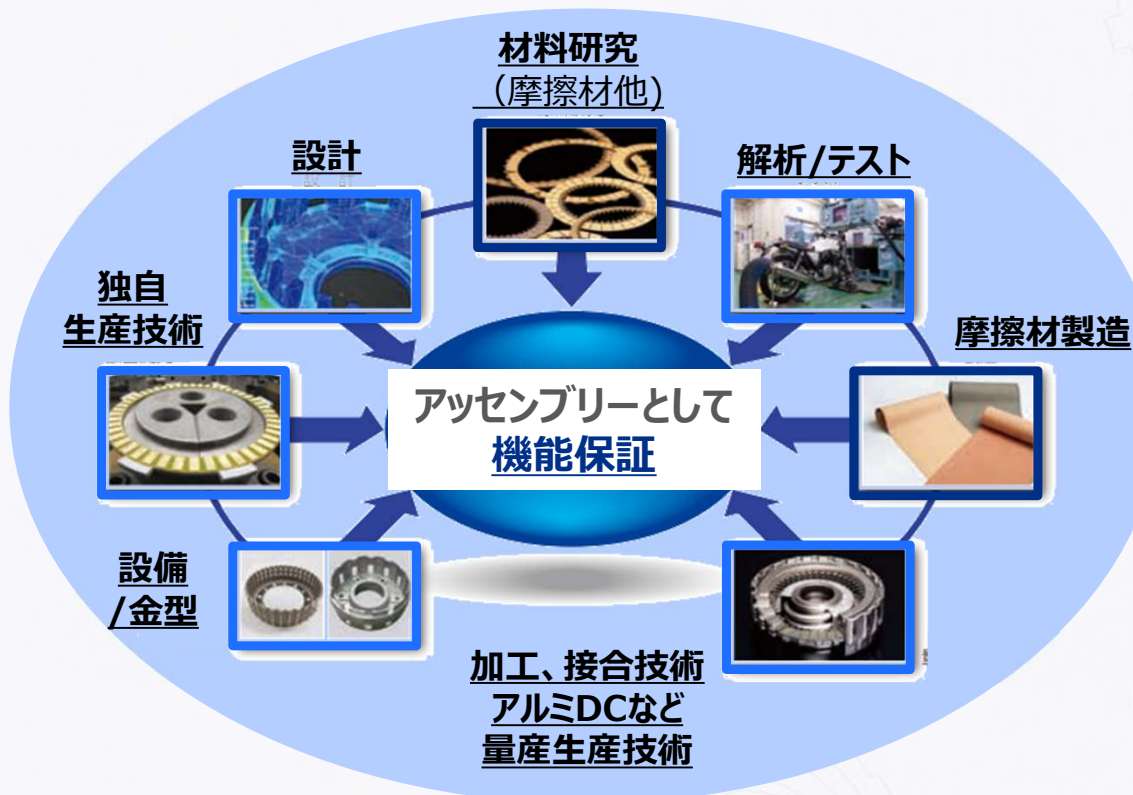
×

メカトロ領域

カタチづくり技術

付加価値の提供

顧客・ユーザー目線での提案



ニーズ
フィードバック



課題解決
・提案

グローバル顧客

- 品質保証
- 機能保証
- コスト競争力
- サプライチェーン
- 仕様進化

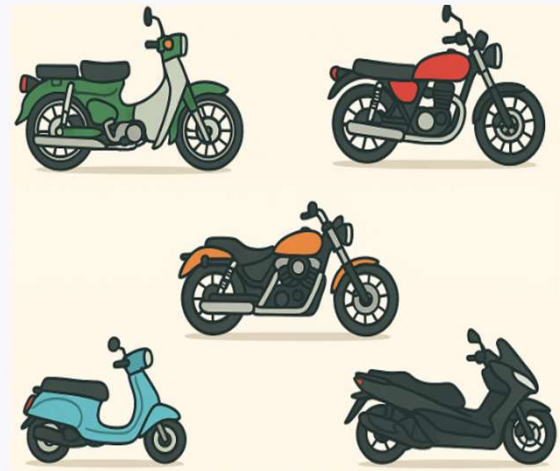


クラッチモジュール全体

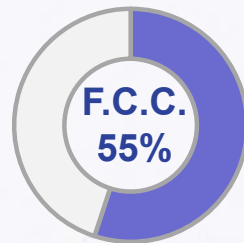
2. エフ・シー・シーの強み

■ 二輪と四輪のクラッチ製品で安定した顧客基盤を形成

二輪クラッチ事業



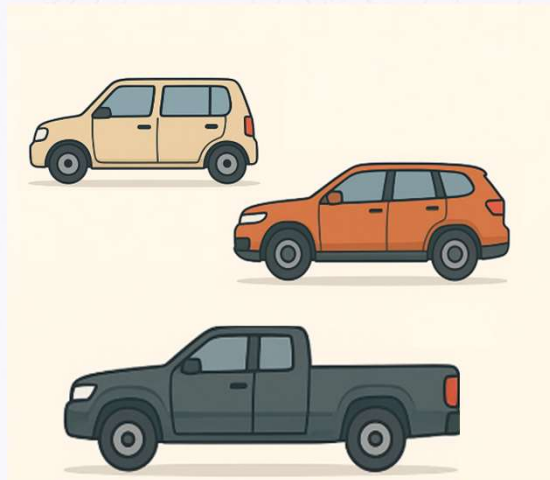
グローバルシェア



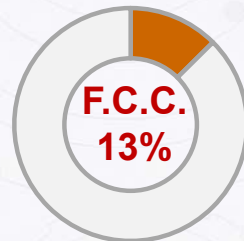
- 小型から大型モデルまで、スベテノボリュームゾーンを網羅
- 世界中のすべての完成車メーカーと連携



四輪クラッチ事業



グローバルシェア



- MT（マニュアル）、AT（オートマチック）、HEV（ハイブリッド）車を網羅
- 日本、米国の完成車メーカーと連携

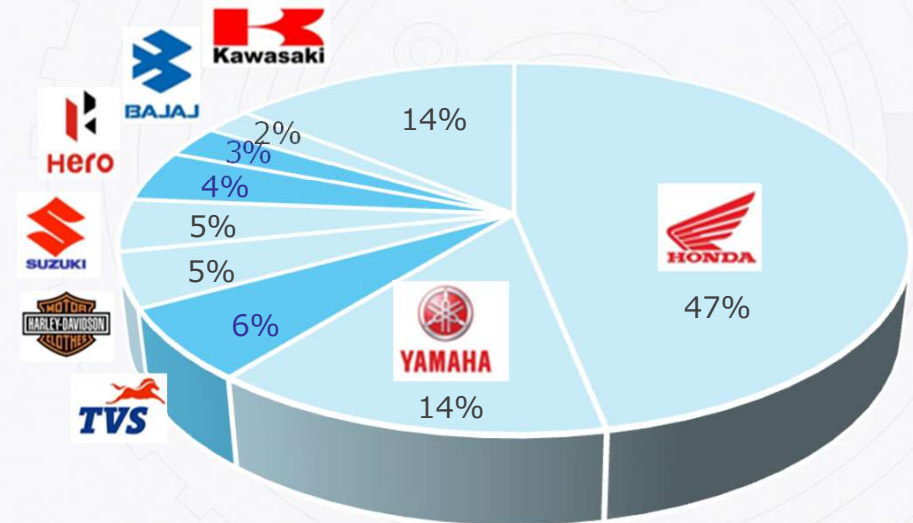


2. エフ・シー・シーの強み

■ グローバル顧客へ積極的な拡販活動を続け足元では海外OEM売上比率が増加

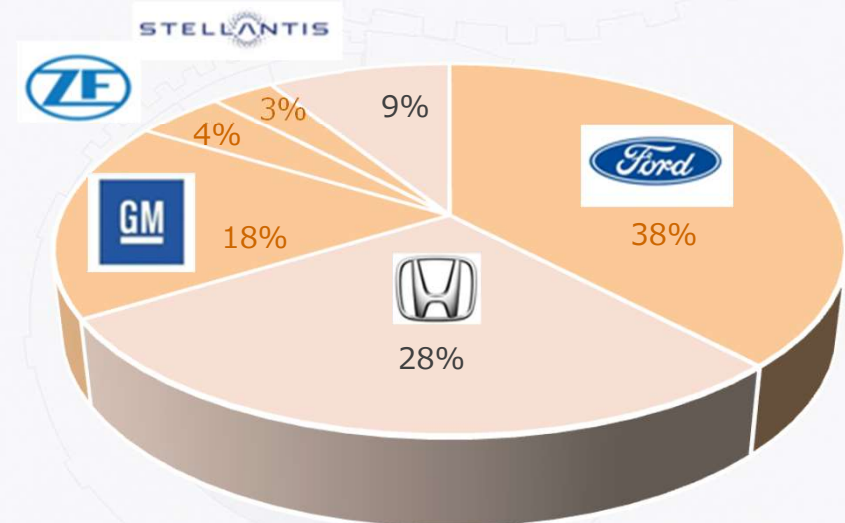
二輪クラッチ事業

	2024年度（単位：百万円）	
	売上収益	構成比
ホンダグループ	56,454	47%
ヤマハグループ	16,725	14%
TVS【印】	7,513	6%
兼松（HARLEY他）	5,697	5%
スズキグループ	5,506	5%
Hero【印】	5,492	4%
Bajaj【印】	3,309	3%
カワサキグループ	2,780	2%
その他	16,933	14%
合計	120,409	100%



四輪クラッチ事業

	2024年度（単位：百万円）	
	売上収益	構成比
FORD【米】	51,659	38%
ホンダグループ	38,479	28%
GM【米】	23,747	18%
ZF【米】	5,882	4%
STELLANTIS【米】	4,199	3%
その他	12,149	9%
合計	136,115	100%



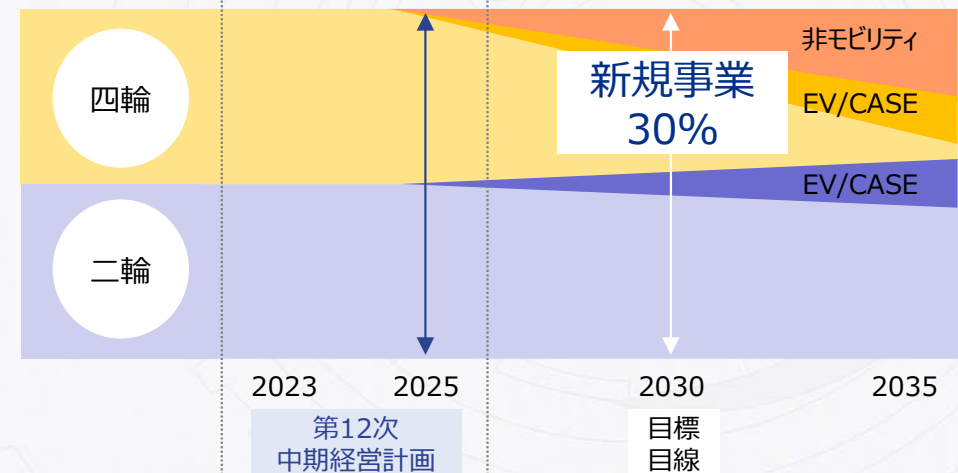
2. エフ・シー・シーの強み

■ モビリティと非モビリティ領域で新たな価値を提供し続ける企業へ転換

2023-2025 中期経営計画

事業構造転換 2023→2030

モビリティと非モビリティ領域で
新たな価値を提供し続ける企業へ転換



事業方針

新規事業創出の実現
仕込みの継続

新規事業 2030年目標目線

モビリティ **20%以上**（売上構成比）

【EV/CASE領域】顧客基盤と技術で事業領域拡大

非モビリティ **10%以上**（売上構成比）

環境・エネルギー分野で新価値創出

DXにより
付加価値の質を変革

デジタル活用の加速

基幹事業強化と新規事業創出・拡大
を同時実現

選択と集中で
事業収益を最大化

基幹事業（クラッチ）

収益力の向上

新規事業投資への企業体力の確保

二輪 盤石化・収益最大化 四輪 縮小・利益体質強化

イノベーションを
生み出す基盤づくり

- ものづくり競争力
- 人材・業務
- 基礎研究開発
- ESG

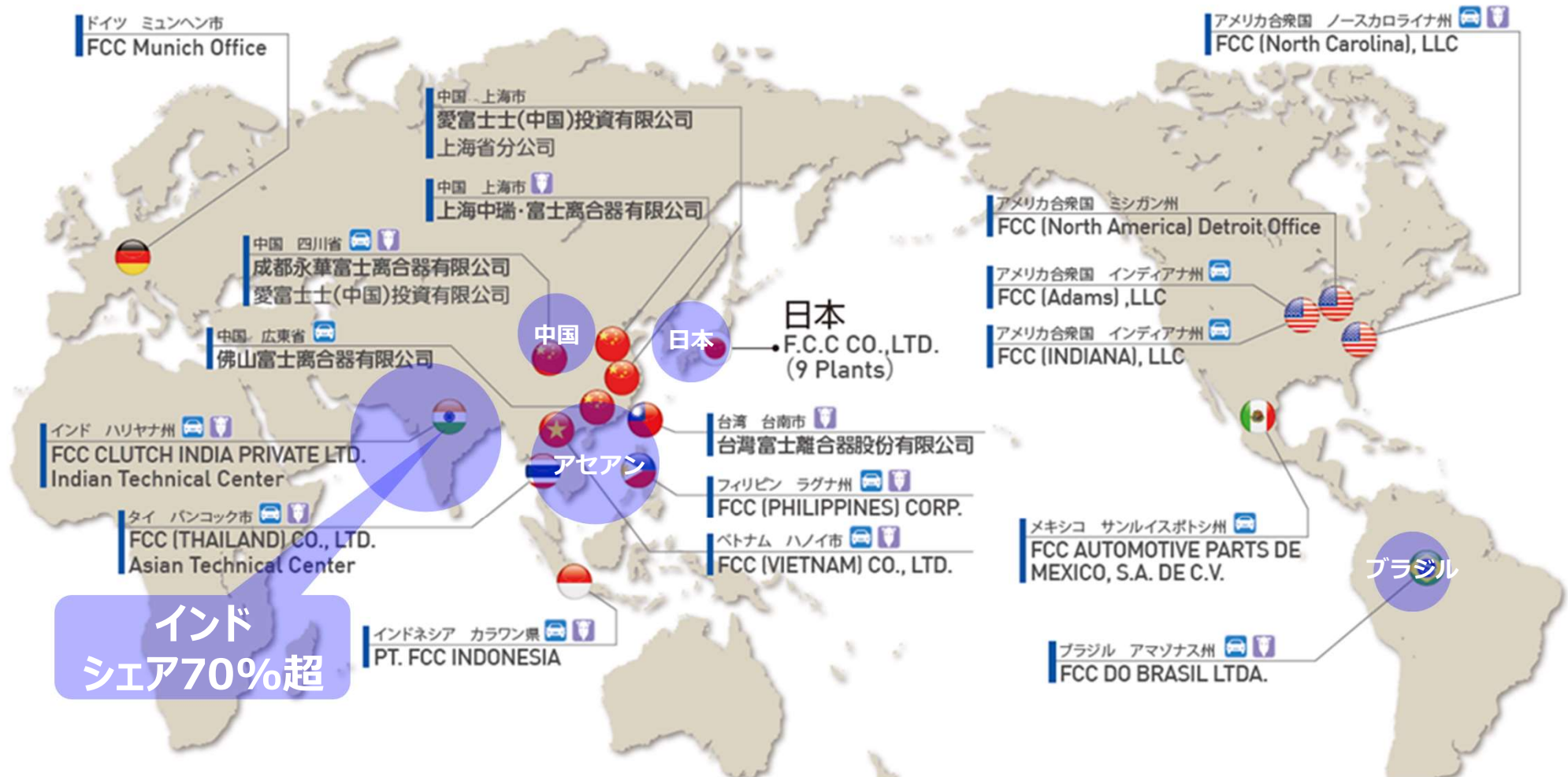
2. エフ・シー・シーの強み

■ 二輪と四輪ですべてのセグメントをおさえ、幅広い製品を顧客に展開

セグメント		エフ・シー・シー 主力製品	主戦場	今後注力する地域
二輪	 ICE ガソリン		インド、アセアン	中東、アフリカ
	 EV 電気	 <p>積層モータコア 2024年度～量産開始</p> <p>パワーユニット、e-Axle 2026年量産に向け準備中</p>	インド、ベトナム	アセアン
四輪	 ICE (AT/MT) ガソリン		米国	インド
	 HEV 電気+ガソリン			
	 BEV 電気	 <p>積層モータコア 中国で量産開始</p> <p>アルミ熱マネ事業 北米・中国で量産開始</p>		

2. エフ・シー・シーの強み 二輪事業

- 二輪事業はインドやアセアンに深く根ざした事業展開 = 現地の産業とともに成長



2. エフ・シー・シーの強み 二輪事業

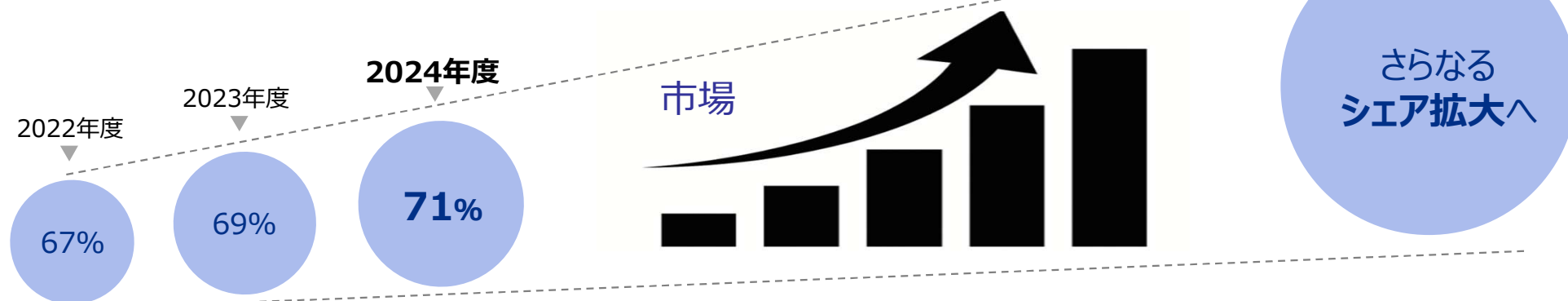
■ インドマーケットにおいては、マクロ、ミクロでも成長ポテンシャルは高い










2. エフ・シー・シーの強み 二輪事業

■ インド二輪マーケットにおいて2024年度シェア70%超えを実現

インドにおける当社シェア推移



- 世界市場の約4割を占めるインドは今後も成長性大
- モータサイクル、特にスクーターの伸長が加速

セグメント		主な取組み	
二輪	 ICE ガソリン	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 低～高排気量帯拡販強化 ➤ 地場環境に特化したアフターパーツビジネス ➤ インドをハブとした中東・アフリカへの拡販 	 
	 EV 電気	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 電動基幹部品（積層モータコア）量産開始 ➤ 電動モータアッセンブリーライン量産開始 → 顧客基盤を活かし国内と海外拡販へ 	  

2. エフ・シー・シーの強み 二輪事業

■ 二輪世界耐久選手権へ参戦 2025年6月にSpa8時間耐久ロードレースで優勝



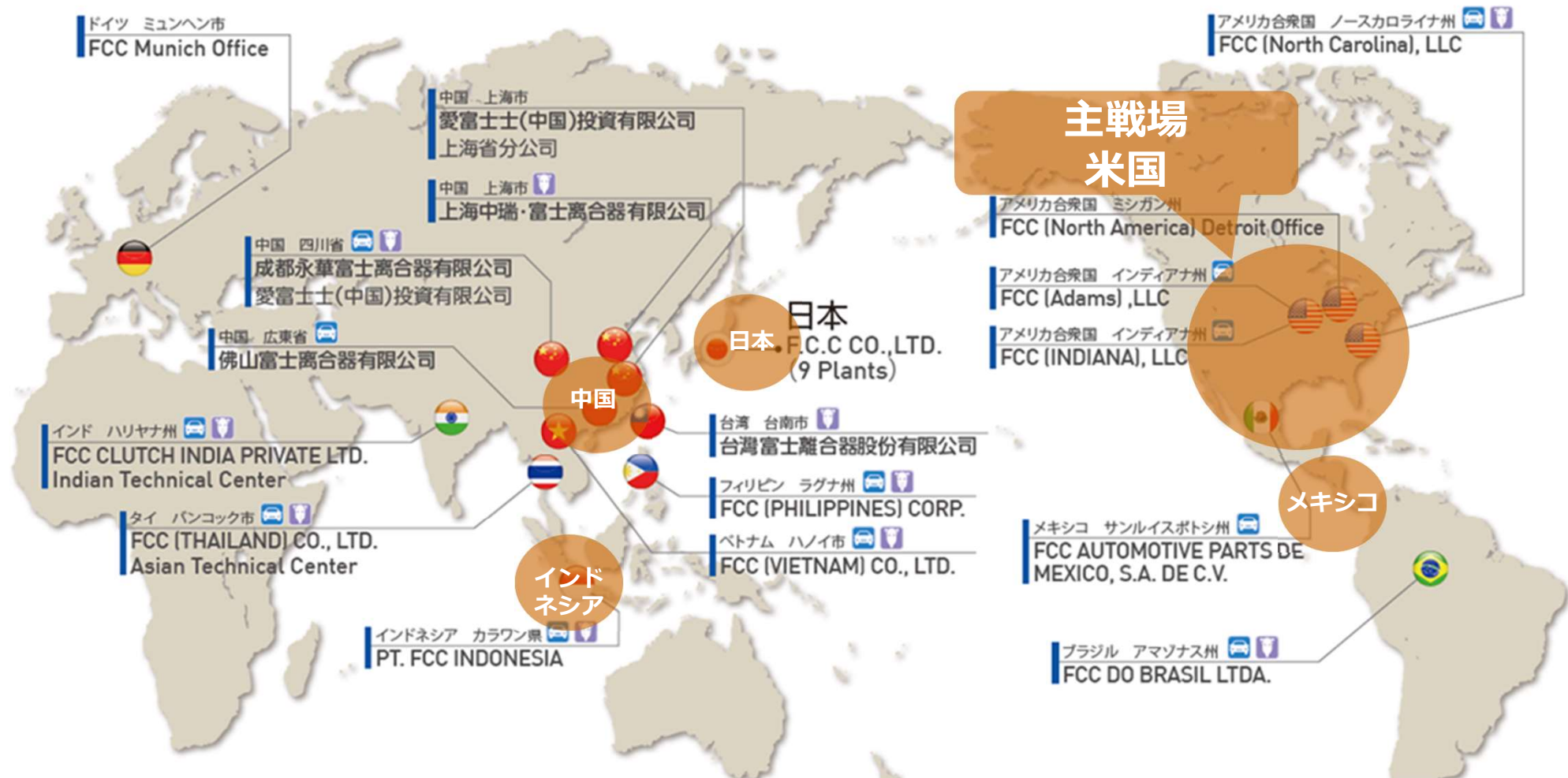
主な成績

- EWC年間総合優勝 : 2回 2017-18、2022
- ル・マン24H優勝 : 2回 2017-18、2019-20
- ボルドール24H優勝 : 1回 2018-19
- 鈴鹿8H優勝 : 3回 2006、2011、2012



2. エフ・シー・シーの強み 四輪事業

■ 四輪事業は米国が主戦場 四輪売上の約8割を占める



2. エフ・シー・シーの強み 四輪事業

■ 四輪は米国にてICEとHEVで躍動 電動化へ向けた仕込みも継続

パワートレイン別展開

<div>領域</div> <div>製品・ソリューション</div>	<div>ICE ガソリン</div> <div>■ 高まる米国現調化基調</div>	<div>HEV 電気+ガソリン</div> <div>■ 足元ではHEV拡大路線</div>	<div>BEV 電気</div> <div>■ 中長期にはBEV化進行</div>
<div>基幹事業 (クラッチ)</div>	<div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 【米国】BEVからICE・HEV需要の高まりや、米国関税政策に伴う顧客の現調化志向はエフ・シー・シーにとって追い風。短中期では現調化対応を進めつつ、中長期ではBEV化への基盤を構築する ● 【インド】圧倒的な二輪顧客基盤を活かした市場参入を図る 		
<div>積層 モータコア</div>	<div>  </div>		<div> <div>基幹クラッチ事業で培ったプレス技術を活用</div> <div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ● HEV用、BEV用両面で事業開発。マーケットは、米国、インド、中国、日本を狙う </div>
<div>アルミダイキャスト 熱マネジメント</div>	<div>  </div>		<div> <div>アルミダイキャストを活用したサーマルソリューションを提供</div> <div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ● HEV用、BEV用ADAS（先進運転支援システム）用アルミケースを中心に開発中 </div>

2. エフ・シー・シーの強み 新規事業

■ モビリティ領域(特にEV) / 環境領域 / 再エネ省エネ領域 の3つの軸に注力

クラッチ製造で培ったコア技術



新素材技術、精密アルミ鋳造、プレス技術、接合技術

● モビリティ領域 (EV)



モータコア、e-Axleなど

● 環境領域 (サーキュラエコノミー)



水ろ過モジュール、気体吸着モジュール など

● 再エネ省エネ領域 (エネルギーソリューション)



省エネセラミックセッタ、創エネSOFCモジュール など

2. エフ・シー・シーの強み サステナビリティ

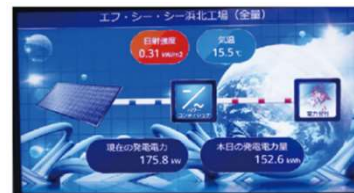
環境に対する取組み状況

E CO₂削減状況とエネルギー削減に向けた主な取組み

再生可能エネルギー導入に向けた主な取組み

- 太陽光発電設備導入
日本、インド、中国、台湾
- CO₂フリー電気の100%導入
浜松地域、鈴鹿地域

太陽光発電設備



地球にやさしく、未来をあかるく。



地球にやさしく、未来をあかるく。



2030年CO₂排出量50%削減目標（2013年度比）

- | | |
|----|--|
| 国内 | 主にCO ₂ フリー電気導入により、目標達成 |
| 海外 | 主に太陽光発電設備導入などの施策の推進は行ったものの、生産量増加により、目標未達 |

2. エフ・シー・シーの強み サステナビリティ

社会に対する取組み状況

S 人材戦略3つの柱の取組み状況

多様性

- 柔軟な働き方を支える制度強化

- ・働き方の選択肢拡充
育児・介護と仕事を両立できる柔軟な制度を整備
- ・職場環境の最適化
ライフイベントとキャリア形成の両立を支援



人材育成

- 「新しいエフ・シー・シー」実現に向けた人材育成の再設計

- ・変革に強い人材の育成
事業変化に対応できる柔軟な学びの場を提供
- ・多様なリーダーの創出
女性のキャリア形成と意識改革を促す研修を展開



エンゲージメント

- 従業員エンゲージメント向上を目的とした
従業員持株会向け譲渡制限付き株式インセンティブ制度導入



従業員持株会加入率

制度導入前：約20%



制度導入後：約80%

3. 足元の業績

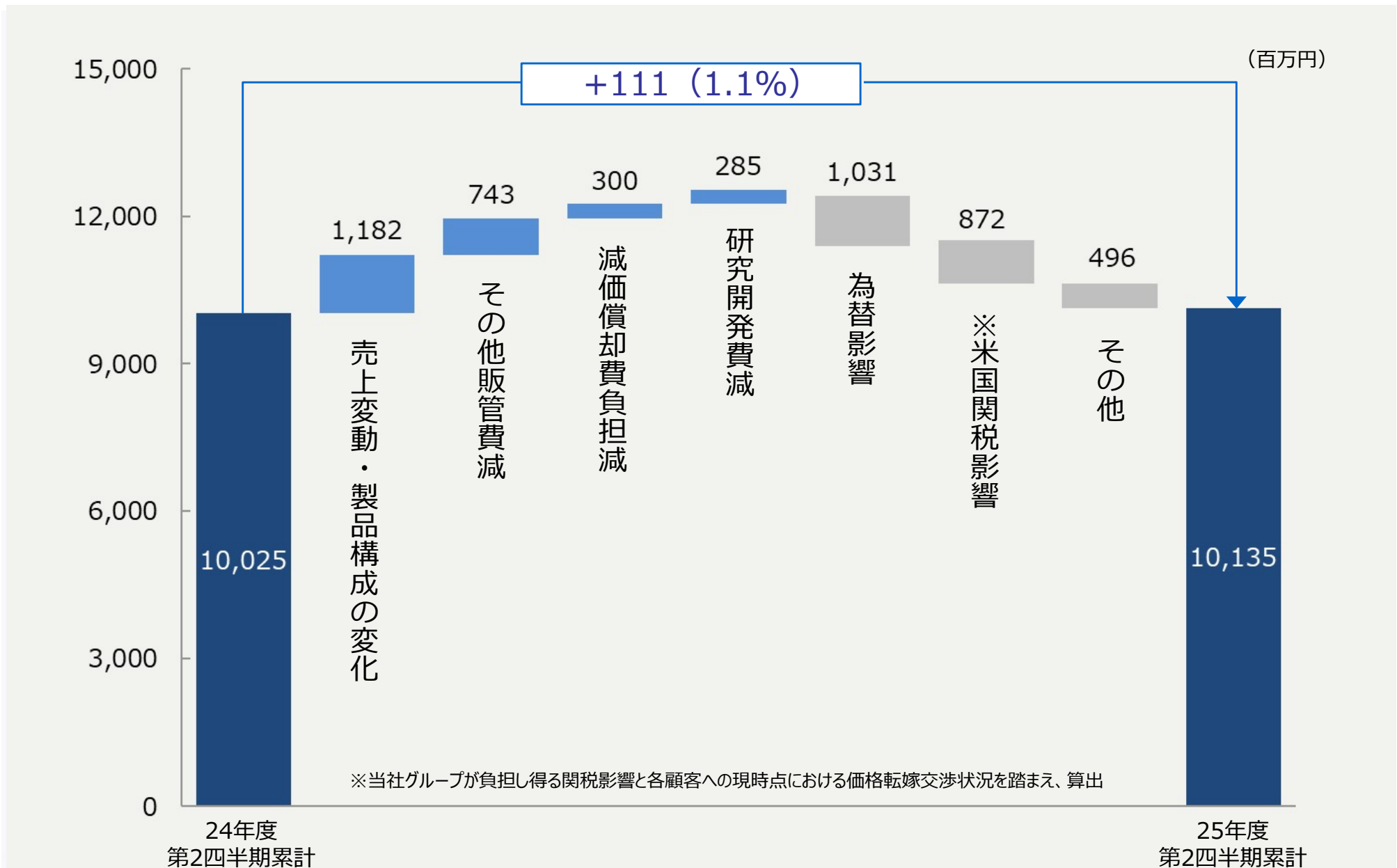
■ 2025年度 第2四半期累計 連結決算の概要

二輪ではインド、四輪では北米の販売が増加したことにより営業利益は**過去最高**を更新
※円高の影響がなければ売上収益も過去最高（為替影響 約64億円）

	2024年度 第2四半期累計	2025年度 第2四半期累計	増減額	増減率	(参考) 為替影響
					(百万円)
売上収益	127,323	126,375	-948	-0.7%	(-6,400)
営業利益	10,025	10,135	110	1.1%	(-1,000)
税引前中間利益	10,252	11,055	803	7.8%	
中間利益	7,729	8,981	1,252	16.2%	
親会社の所有者に 帰属する中間利益	7,701	8,965	1,264	16.4%	
基本的1株当たり 中間利益	156.07円	185.13円	29.06円	18.6%	
為替レート (期中平均レート)	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	レート差		
1 米ドル	152.63円	146.04円	-6.59円		

3. 足元の業績

■ 2025年度 第2四半期累計 連結営業利益の増減要因



3. 足元の業績

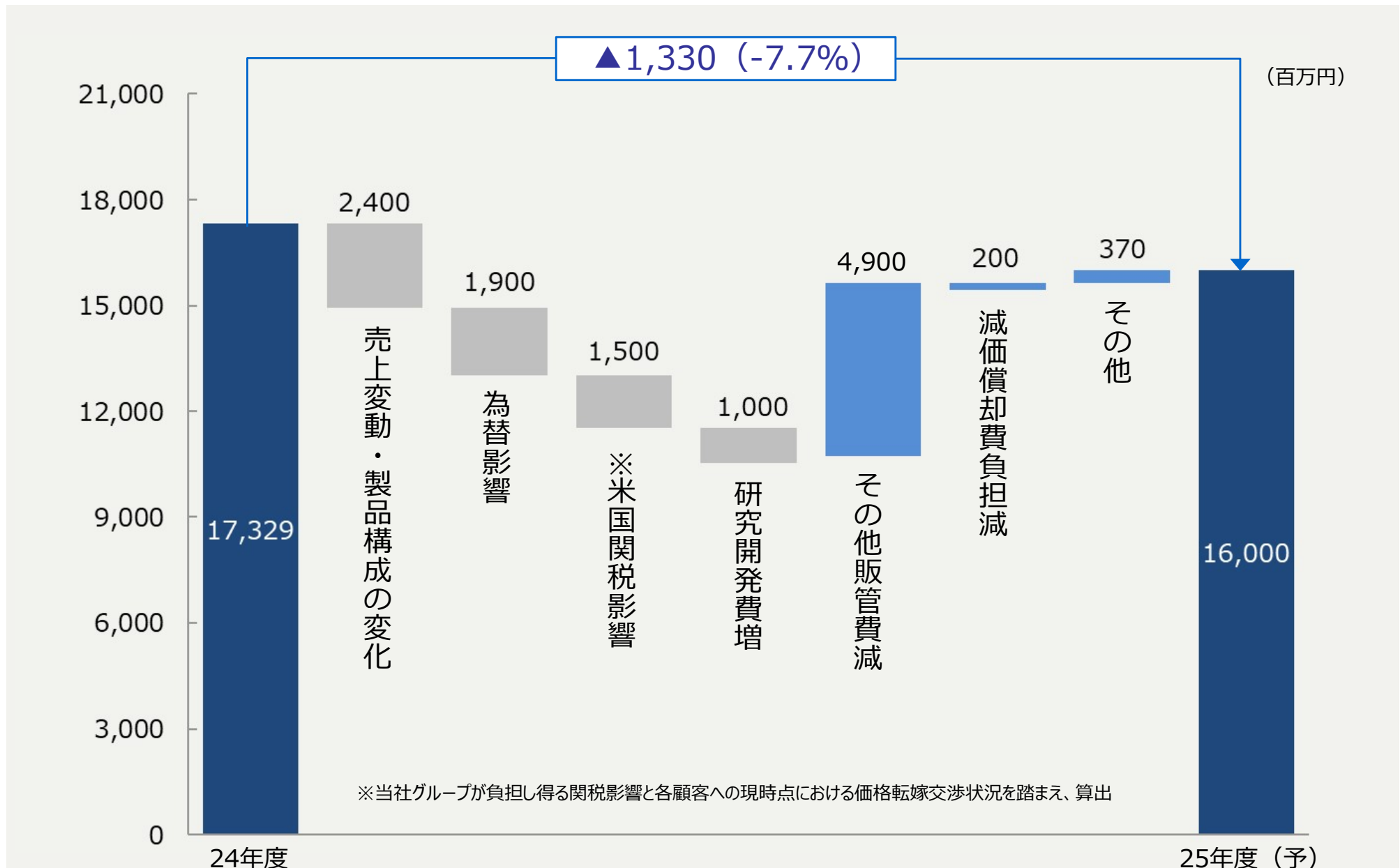
■ 2025年度 連結業績見通し

	2024年度	2025年度 (予想)	増減額	増減率	(百万円) (参考) 為替影響
売上収益	256,619	244,000	-12,619	-4.9%	(-12,300)
営業利益	17,329	16,000	-1,329	-7.7%	(-1,900)
税引前当期利益	20,052	17,000	-3,052	-15.2%	
当期利益	15,903	12,900	-3,003	-18.9%	
親会社の所有者に 帰属する当期利益	15,859	12,800	-3,059	-19.3%	
基本的1株当たり 当期利益	323.77円	264.29円	-59.48円	-18.3%	

為替レート (期中平均レート)	2024年度	2025年度 (予想)	レート差
1 米ドル	152.58円	145.52円	-7.06円

3. 足元の業績

■ 連結営業利益の増減要因見通し

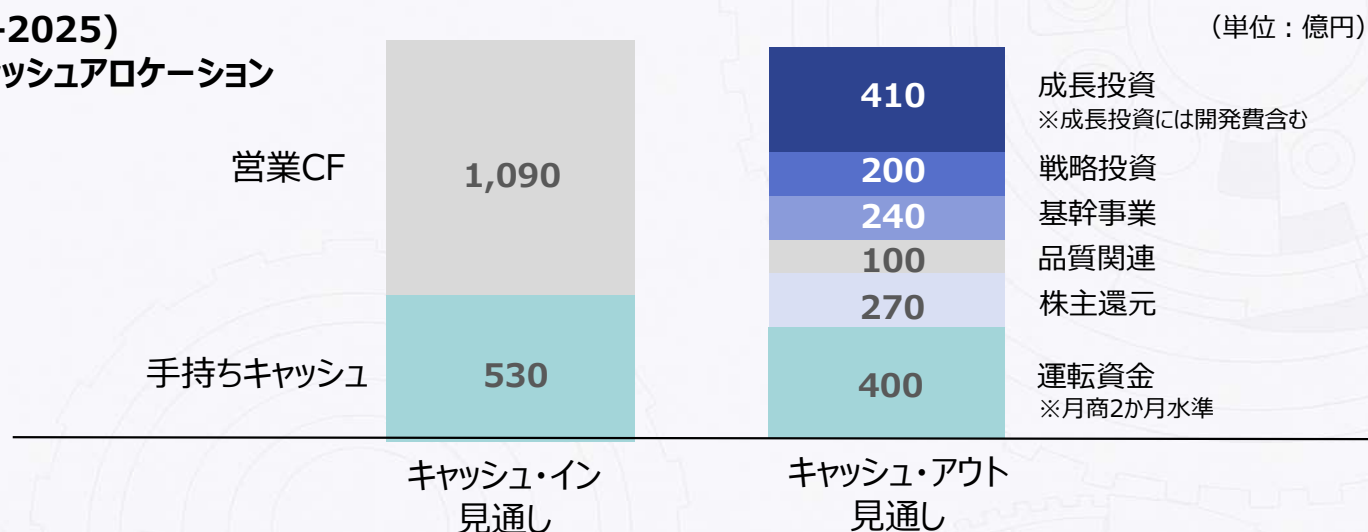


3. 足元の業績

■ キャッシュアロケーション 状況

- 事業ポートフォリオ転換に向け、成長投資を中心に資金を投下
- また、基幹事業については、投資効率を意識し二輪クラッチを中心に投資

12中(2023-2025)
3カ年累計キャッシュアロケーション



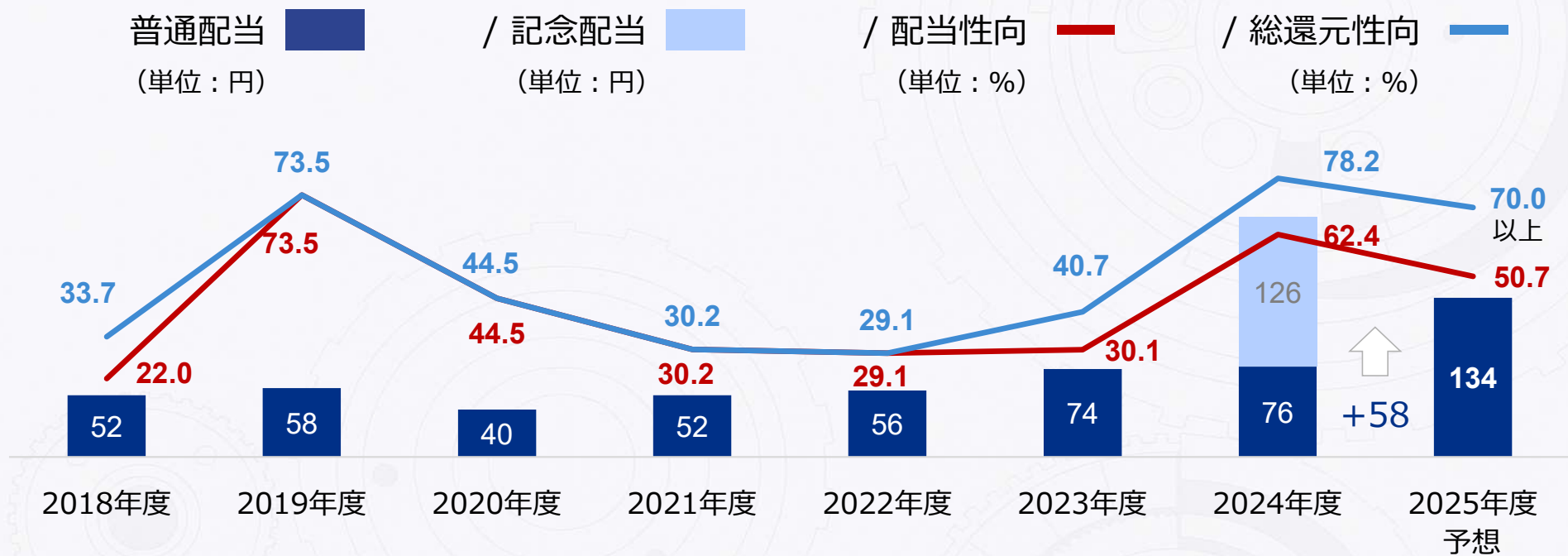
カテゴリ	主な内容	(単位：億円)
	12中累計（見通し）	
成長投資	二輪EV：60 四輪EV：146 非モビリティ：106	
戦略投資	二輪EV：DAT BIKE資本業務提携、他	
基幹事業投資	二輪クラッチ：140(インド能力拡大等) 四輪クラッチ：100	
品質関連	品質関連費用 100	

3. 足元の業績

■ 株主還元および株主優待

株主還元

- 2025年は中計目標（総還元性向40%）を上回る70%以上を想定
- 普通配当（年間）2025年度は134円（2024年度比+58円）を予想



配当 ▶ **1株あたり年間134円予想** (普通配当前年比+58円)、中間配当：67円、期末配当：67円予想

株主優待

- 毎年3月31日、9月30日現在200株以上かつ1年以上継続保有された株主様に、地元特産品を年2回贈呈





ご清聴まことにありがとうございました